

【第20回ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介】

重症心身障害児施設びわこ学園 小児科医師

高谷 清 (たかや きよし)

昭和12年京都生まれ。京都大学医学部を卒業し、小児科医師となる。やがて重症心身障害児の療育に関わるようになり、昭和59年から定年となる平成9年まで、重症心身障害児施設びわこ学園（第一びわこ園）園長を務めた。現在も執筆活動を通じて、重い障害をもった子どもが大切にされる社会の意義を説く。

高谷氏が小児科医師として診察を始めた頃のことである。京都大学病院に診察を受けにくる外来患者のなかにはダウン症や脳性麻痺の子もいたが、感冒の治療が終わると彼らは帰っていく。氏は障害をそのままにして子どもを帰す自分自身に、医師として次第に違和感を感じるようになっていった。次の赴任先である大津赤十字病院に移って一年が経った頃、びわこ学園から医師の応援依頼があった。非常勤医師として学園の子どもたちと関わるなか、氏は医師として重症心身障害をもつ子どもとどのように向き合うべきか深く考えるようになる。その後、いくつか病院を移動し、昭和52年にはびわこ学園の正規の医師となり、昭和59年には第一びわこ学園の園長となった。その間に学園の建て替えがあり、氏の障害児「療育」思想を体現する施設が設計された。また、昭和62年には、その資金を得る活動として「抱きしめてBIWAKO」という事業を成功させた。びわこ学園のために21万人が参加費1000円を払って参加し、みんなで手をつないで琵琶湖を囲むという事業を実行するのは決して容易なことではなかったが、障害者が生活しているまちがふつうのまちであるとの考えが共有されるきっかけとなった。

びわこ学園の前身、近江学園の創設者である糸賀一雄氏は「この子らを世の光に」と説いた。高谷氏はこの福祉思想を受け継ぎ、重い障害をもった子どものいのちが大切にされる社会の実現を訴え続けている。人類はこれまで、心を寄せ、協力し、分かちあってきた。福祉とはそうした人と人のつながりを意味するものであることを氏はその療育実践を通して唱え続けてきた。重症心身障害児の側に立ち、また、その立場から社会のあり方を問うてきた氏の提言には、現代の教育が忘れてはならないものを示してくれているといえるだろう。

【ペスタロッチー教育賞 第20回特別賞 受賞団体紹介】

あしなが育英会

あしなが育英会は、病気、災害、自死等で親を亡くした子どもたちや、親が重度後遺障害で働けない家庭の子どもたちを物心両面で支えることを目的として設立された民間非営利団体である。国などからの補助金・助成金は受けず、募金や「あしながさん」からの継続的な寄付金で運営されている。交通遺児の支援に始まる活動は40年以上にわたって多くの遺児を支え、ひとを想う気持ちを大切に社会の実現に寄与してきた。

あしなが育英会の活動は、昭和42年の「交通事故遺児を励ます会」の設立にさかのぼることができる。当時、交通事故によって引き起こされる悲劇は社会から十分に認知されておらず、遺族は精神的にも経済的にもつらく苦しい生活を強いられていた。その現状を遺族自らが社会に訴え、賛同者を得て街頭募金が始められた。彼らの願いは国会にも届き、昭和44年には「交通遺児育英会」が設立されることになる。

交通遺児育英会による進学支援は、経済支援に留まらず、奨学生に必要な生活支援と精神的支援をとまなうものであった。遺児の将来を想う個人から匿名で継続的に支援が得られる仕組みをつくることにより、安定した奨学制度を確立した。さらに、奨学生のために学生寮を開設して規律ある生活を支え、夏には「奨学生のつどい」を開催した。つどいに集まった奨学生は、遺児というつらい現状のなかにあっても、自分たちには支えてくれる「あしながさん」がいて、同じ境遇の仲間がいることを確認し、連帯と自助の精神をともに育んでいった。

昭和58年のつどいにおいて、自然災害が多くの遺児を生み出すことに気づいた奨学生らは、交通遺児に留まらない支援に向けて活動を始める。さらに、この活動は病気遺児への支援にも広がり、平成5年には交通遺児育英会とは別団体として、新たに「あしなが育英会」が設立された。従来の活動を引き継ぎつつ、新しい趣旨を得て、あしなが育英会は積極的に遺児の支援を展開する。一度に多くの遺児をうんだ阪神大震災では組織的な取り組みが必要とされ、「神戸レインボーハウス」を建設して遺児の心のケアの拠点とした。現在は東日本大震災によって遺された子どもたちのために「東北レインボーハウス」の建設が進められている。

以上のように、あしなが育英会の活動は、40年以上にわたって、遺児の成長を支え、ひとびとの意識を変え、ひとを想う気持ちがひとを支える社会の実現を目指した社会運動であったといえる。子ども一人ひとりの可能性を信じたペスタロッチーの貧民教育実践は、同時によりよい社会の実現に向けた社会改革運動でもあった。震災後の社会のあり方が模索されるいま、あしなが育英会の永年の活動に対し、ペスタロッチー教育賞第20回特別賞を設けて顕彰する。

以上